

## ■ 保管方法

- 風通しがよく、湿度が高くない場所で、直射日光を避けて保管してください。
- 火のそばや暖房器具のそばなどの高温になるところに置かないでください。変形や損傷の原因になります。
- 購入時の靴箱や収納袋に入れて保管しないでください。湿気で靴の接着剤が劣化したり、カビの原因になります。
- 直射日光のあたる庭の物置や車のトランクなど高温になる場所に保管しないでください。変形や損傷の原因になります。

## ■ 廃棄方法

- 廃棄方法は住まいの自治体の収集方法に従ってください。

## ■ アフターサービス

お買い求めいただきました本製品は万全を期して製造しておりますが、万一不備な点がございましたら、お買い求めいただいた販売店、もしくは下記の弊社窓口までご連絡ください。

製造上の欠陥による不具合の場合は無償で交換させていただきます。なお、修理、交換等の要否につきましては、弊社の裁量にて判断させていただきます。

なお、以下のような原因での破損、不良につきましては保証いたしませんのでご了承ください。

- 本製品の誤った使用方法によるもの
- 間違ったお手入れ、保管方法、経年変化による素材劣化
- 乱暴な取り扱いによるもの
- その他、製造上の欠陥以外の原因によるもの

破損時は弊社にて診断をして、修理が可能な場合はご要望により有償にて修理をさせていただきます。

### アウトソール(靴底)の交換

モンベルではアウトソールの交換修理を有償にて行っています。アウトソール(靴底)の磨耗は、スムーズな歩行を妨げます。「滑りやすくなった」と感じたり、かかとやつま先部の減りが目立つようなら早めに交換をしてください。

また、ミッドソール(中底)や靴本体との接合部の損傷にも注意し、異常が見られた場合は直ちに使用をやめ、販売店もしくは弊社カスタマー・サービスにご相談ください。なお、一部の製品はアウトソール(靴底)の交換に対応していないものもございます。モンベルカタログやホームページをご覧ください。か、販売店もしくはモンベルカスタマー・サービスにご相談ください。

## ■ その他

本製品の仕様、デザインは予告なく変更されることがあります。また、重量などのスペックには誤差が生じる場合があります。

### 輸入販売元

株式会社 **モンベル** 本社 〒550-0013 大阪府西区新町2-2-2 モンベルホームページ <https://www.montbell.jp/>  
商品についてのお問い合わせはカスタマー・サービスまで Tel. 06-6531-3544 フリーコール: 0088-22-0031 07-843-2110

ASOLO

共通取扱説明書

# フットウエア

Footwear

この度はお買いあげいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書(以下「本説明書」といいます)は本製品の正しい取扱方法を説明しています。ご使用前に本説明書をよくお読みいただき、正しい使用方法をご確認ください。なお、ご不明な点等ございましたら、販売店もしくは(株)モンベルカスタマー・サービスまでお問い合わせください。本説明書は大切に保管してください。

## ■ 各部の名称



※使用されている素材は、各製品の品質表示をご覧ください。

※イラストはイメージです。

## ■ 安全上の注意 必ずお読みください

**警告** 場合により人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。

- 本製品の改造や分解などは絶対にしないでください。性能が損なわれ、十分に機能が発揮できない恐れがあります。
- 正しいお手入れ方法、保管方法を守ってください。誤ったお手入れや保管方法を行うと、本来の性能を発揮できない恐れがあります。
- 使用前は毎回必ず点検をしてください。老朽化が認められる場合や損傷が認められたり、疑わしい場合は直ちに本製品の使用を中止してください。本来の性能が発揮できない恐れがあります。
- フックを使用している登山靴は、足首内側のフックが反対の靴に引っ掛かり、転倒やケガの恐れがあります。靴を履く際は、必ず靴ひもを一番上まで締めてください。痛みなどの理由で靴ひもを上まで締めずに歩く場合や、下山中、稜線歩きの際は、特に慎重な足運びをお願いします。

また靴ひもが長すぎると結び目のループが大きくなり、フックに引っ掛かりやすくなります。その場合は、二重結びや靴ひものサイズ交換等に対応してください。

**⚠ 注意** 人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

- ソールの貼りつけに使用している接着剤は、靴の使用の有無にかかわらず経年劣化により剥離が起こる可能性があります。使用後のお手入れや保管方法は本説明書に従って行ってください。
- 経年劣化や接着剥離は使用中に突発的に起こる可能性が高く、事故の原因にもなる可能性があります。ご使用前は靴本体やアウトソール（靴底）、ミッドソール（中底）、フック、D環等に異常がないことを点検してください。
- アウトソール（靴底）は屈曲を繰り返してひび割れ等の異常がないか確認してください。異常が見受けられた場合は直ちに使用をやめ、販売店もしくは弊社カスタマー・サービスまでお問い合わせください。
- 新しい靴でフィールドに出かける際は必ず十分に慣らし履きを行ってください。靴擦れなどのケガの恐れがあります。
- 油がひいてある場所で使用しないでください。転倒やケガの恐れがあります。
- 靴ひもは傷みにより、切れることがあります。フィールドに出かける際は必ず予備の靴ひもをお持ちください。

## ■ 使用前の点検

使用にあたっては、毎回必ず次のことを確かめてください。  
異常が見られた場合は使用しないでください。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ソールのはがれがないか             | <input type="checkbox"/> アウトソール（靴底）が擦り減っていないか            |
| <input type="checkbox"/> 縫い目のほつれや留め具の脱落がないか      | <input type="checkbox"/> 靴ひもが傷んでいないか                     |
| <input type="checkbox"/> アッパー（甲皮）の屈曲部にひび割れなどがないか | <input type="checkbox"/> アウトソール（靴底）が屈曲を繰り返してひび割れ等の異常がないか |

## ■ お手入れ方法

間違ったお手入れ方法や保管方法は本製品の寿命を縮めます。  
使用後や保管時は以下の点を参考にしてください。

靴のお手入れ方法は使用素材によって異なります。素材に適した方法でお手入れしてください。汚れを放置すると経年劣化が進み、ソールのはがれの原因につながります。

※使用されている素材は各製品の品質表示をご覧ください。

### ○ ご使用後のお手入れ

#### ① 汚れ落とし

##### 1) アウトソール（靴底）

水洗いしてください。頑固な汚れはブラシを、詰まった石にはマイナスドライバーを使用すると簡単に取り除くことができます。

※マイナスドライバーでソールや手を傷つけないようにご注意ください。

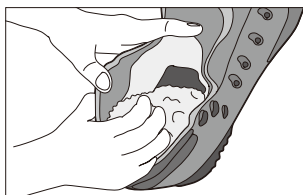


▲詰まった石を取り除く

##### 2) フットベッド（中敷き）・靴内部

フットベッド（中敷き）は使用するたびに取り出し、しっかり乾燥させてください。フットベッドを取り出すことで靴内部も乾かしやすくなります。フットベッドの汚れがひどい時は靴用洗剤とブラシで洗ってください。

靴内部のライニングが革であれば、汚れを拭き取って落とし、ファブリック（合成繊維）であれば、ブラッシングで汚れをかき出してください。



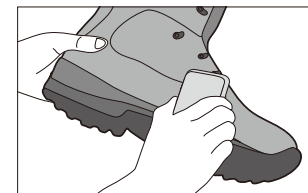
▲靴内部についた泥を落とす

### 3) アッパー（甲皮）部分

靴ひもを靴から外します。靴用ブラシ等（ヌバックやスエードの場合は専用ブラシ）を用いて汚れを落とし、頑固な汚れは水洗いしてください。市販の靴専用洗剤以外のご使用は、皮革部分を傷める恐れがあります。

#### ・靴ひも

外した靴ひもをネットに入れ、洗濯機を使用すると手軽に洗えます。

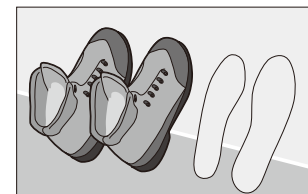


▲靴用ブラシで汚れを落とす

### ② 乾燥

直射日光を避けて、風通しの良いところで2~3日かけて乾燥させてください。靴内部に水分が残っている場合は、靴用の乾燥剤を靴の中に入れてください。

※濡れた状態で直射日光やヒータ等で急激に乾燥させないでください。皮革のヒビ割れや硬化の原因となります。また靴の接着部分にすきまができたリソール等のはがれにつながる恐れがあります。



### ③ はっ水

はっ水処理は、汚れを取り除き、乾燥を済ませた後に行ってください。汚れがついたままはっ水処理を行うと正しいはっ水効果が得られず、防水透湿性素材を使用している場合は性能を発揮できない恐れがあります。

#### ■ 皮革製ブーツ

汚れを除去して乾燥させた後に、保革剤入りはっ水スプレーを塗布します。

※保革剤が入っていないはっ水スプレーを使用する際は、素材を長持ちさせるために、市販の保革クリームを併せて使用されることをおすすめします。

※皮革素材は保革剤により風合いが変わるため、目立たないところで試してから全体に塗布してください。

#### ■ ファブリック（合成繊維）、合成皮革製ブーツ

汚れを除去して乾燥させた後に、はっ水スプレーを塗布します。保革クリームは使用しないでください。

一部に皮革パーツを使用している場合は、上記の皮革製ブーツと同様の処理を皮革部分にします。その後、ファブリック部分へはっ水スプレーを塗布します。



### ⚠ 注意

はっ水スプレーを使用する際は、必ず風通しの良い野外で行ってください。ご使用になるはっ水スプレー・保革クリームなどについては、それらの製品に付属の「取扱説明書」「注意書き」をよくお読みいただきご使用ください。